

平成28年度 第2回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 平成28年10月27日（火）10時00分から12時09分
【場 所】 宗像市役所 本館3階 第2委員会室
【出席者】 宗像市長 谷井博美
教育委員 中岡政剛
教育委員 宮司葉子
教育委員 白石喜久美
教育委員 石丸哲史
教育長 遠矢修

【その他の出席者】 教育子ども部長高橋勇次、子どもグローバル人材育成担当部長清水比呂之、教育子ども部主幹指導主事阿部龍彦、文化スポーツ担当部長兼文化スポーツ課長磯部輝美、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事高木陽一郎、教育政策課指導主事守浩一郎、教育政策課指導主事佐々木真理子、秘書政策課長長谷川勝憲、学校管理課長竹下俊史、子ども育成課長村上治彦、子ども育成課社会教育主事薄伸也、子ども育成課社会教育主事河野和道、図書課長本田和徳、文化スポーツ課参事古沢昭一、文化スポーツ課主幹兼スポーツ推進係長高崎浩、教育政策課政策係長廣渡恵三、教育政策課学務係長山本幸江、秘書政策課秘書政策係長飯野英明、教育政策課政策係企画主査船越健樹
※傍聴 なし

1 開会

【谷井市長】 平成28年度第2回宗像市総合教育会議を開催いたします。本日の会議についてですが、来年度に向けて予算の編成を行う時期に入りますので、忌憚のない意見をお聞きしたいと思います。来年度の主要事業などについては、後から説明があると思いますが、政策的なことにつきましても、議論したいと思いますのでどうかよろしくお願いたします。それでは、教育政策課長に進めさせて頂きたいと思います。

【教育政策課長】 本日は平成29年度主要事業、確かな学力を育む教育、健やかな体を育む教育の3つのテーマにつきまして協議を行っていただけたらと考えております。各テーマでは、担当からまず説明を申し上げました後に、質疑応答を行いまして、意見交換を行っていただきます。次年度以降の方向性につきまして意見交換をしていただければと考えております。

2 協議事項

(1) 平成29年度主要事業について

【教育政策課長】 資料はA3縦使いの一覧表でございます。この一覧表は、平成28年度の教育子ども部関連の全事業一覧でございます。事業費につきましても平成28年度の事業費ということでご了承いただけたらと思います。この中から、本日主要事業で、10事業ほどピックアップして、説明を行いたいと思います。各事業につきまして、事業内容、29年度に向けての方向性等をお話ししたいと思います。まず、4番目の事務事業名、子どもの居場所づくり事業でございます。これはプレーパーク事業関連でございます。コミュニティや市民活動団体との協働で子どもの居場所づくりを進めており、子どもたちと地域の人たちのふれあいや世代間交流の充実を図るため、11区すべてのコミュニティで子どもの居場所づくり事業の協働委託を行っております。29年度につきましても、いつでも気軽に子どもたちが集える居場所づくりのために地域の実情に応じた形で施設開放型に移行できるよう支援を行うこととしております。そのために出張プレーパーク開催、子どもの居場所整備事業補助金の活用等を行うこととしております。また、これに関連しまして、6番目の放課後子ども総合プラン事業でございますが、これは寺子屋事業関連であり、全ての就学児童が放課後等を安全安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができるように放課後児童クラブや地域住民の参画を得まして、放課後等に全ての児童を対象として学習や体験、交流活動等を市内6地区で行うこととするものでございます。それから、21番目の教育保育施設型給付事業でございますが、待機児童対策関連の事業でございます。子ども子育て新制度における保育確保方策に基づく施設整備を計画的に実施しまして、保育ニーズに対応した保育サービスの案内利用調整を行うものです。29年度におきましても、届け出保育施設への保育料補助を新設しまして、待機ゼロの実現を目指します。また、保育士資格補助事業として、本年4月から無料職業紹介所を開設しております。10月からは家賃補助等を実施し、保育士資格者の離職防止策を図っているところでございます。次に、27番目の小中一貫教育推進事業ですが、第2期の小中一貫推進計画に基づきまして、これまで行ってきたところでございますが、29年度につきましても、6中学校区に学園コーディネーター等を配置しまして学校間や学校・家庭・地域が円滑に連携できるように連絡調整を行なうとともに、小中一貫教育推進のために授業支援や教職員の人材育成及び広報活動等を行います。また、兼務教諭の移動手段の確保のために、城山中学校区の小学校等に公用車の配備をいたします。新たに自由ヶ丘、城山中学校区の7つの小中学校に研究指定委嘱を行なうとともに、2年目である中央、河東中学校区の研究発表に向けた活動も支援をいたします。小中一貫教育を広く周知し、学校・家庭・地域が協働する教育活動をさらに推進するために学校やPTAから企画を募ってPR活動を行なうこととしております。それから、30番目の世界遺産学習推進事業でございますが、60番目の世界遺産登録活動事業も関連するところでございます。世界遺産登録活動事業の中の啓発PR事業に位置づけられるものでございまして、子どもたちへの啓発事業といたしまして、30年度から市内全小中学校で世界遺産学習に取り組むこととしております。現在世界遺産学習検討委員会で協議を行なっております。29年度

はモデル事業の実施やその検証、副読本の製作等、より具体的な事業に取り組んで行くこととしております。また、児童生徒が世界遺産候補をはじめとする歴史文化を学習する際の移動バス代の助成や世界遺産学習連絡協議会の全国サミットへの出席で他自治体との情報交換を行いながら、本市について広くPRをしていくこととしております。次に、31番目のALT派遣事業でございますが、英語を使える宗像の子の育成を目指しまして、これまで力を入れてきましたALTの派遣事業につきましては、引き続き発達段階に即した広角的かつ継続的なALT活用を通して、「聞く・話す・読む・書く」の4技能のバランスのとれたコミュニケーション能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ることのできる子どもの育成に取り組めます。今後、次期の学習指導要領の中で外国語活動等が充実される方向となっております。それを視野に入れまして、現在中学校区に一人の配置となっているALTの人員の拡充や配置の見直し等を行ないながら、今後の外国語活動の強化に対応できる体制を図りたいと考えております。それから、32番目の学力向上支援事業ですが、児童生徒の学力向上に向けて小中学校に学力向上支援員を現在22名配置し、チームティーチングによる学習指導や習熟度別課題別学習などの少人数指導等を行なっております。また、小中学校で実施している放課後学習事業への学生ボランティア等を活用しまして、学力の底上げに向けた取り組みを強化しているところでございます。学生の安定的な参加を促進するために福岡教育大学と共同連携した事業展開を行なっておりまして、各学校のニーズに合わせたボランティア派遣を行なうために、教育連携コーディネーターと各学校で調整を行い、より参加しやすい事業内容の整備を図っているところでございます。それから、40番目の学校情報化事業でございますが、本事業ではICTの活用により新たな学びの実現に向けて教育ネットワークシステムが安定して稼働するよう維持管理するとともに、ICT支援員による活用研修を継続して実施したいということで考えております。29年度につきましても、学校情報化計画に基づく基盤整備を行なうこととしており、21年度に導入した教職員が使用するパソコン・プリンター・サーバー等の機器、ソフト・児童生徒が使用する教育用パソコン等について更新を行ないます。併せて、更新システムを今年度は小学校、来年度は中学校に拡大することとしております。また、26年度から一部の小中学校で導入しておりますタブレットの利用拡大をいたしまして、併せて特別支援学級にタブレットの導入を行ないたいと考えております。アンケート結果や実践発表等からもICT活用の有効性は明らかでございまして、電子黒板等と共にタブレットの利用拡大は必要と考えているところでございます。それから、41番目の学校図書館事業でございますが、27年度に策定いたしまして、28年度にスタートいたしました宗像市読書のまちづくり推進計画でございますが、これに基づく事業を基本的には行うこととしております。学校図書館を通して読書の楽しさを知るとともに、情報活用能力が養われることで豊かな心が育ち、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する生きる力を身につけることでございます。学校図書館機能を十分に発揮するために学校図書館の整備や研修会を行なうとともに、市図書館を使った調べる学習コンクールや小学生読書リーダー養成講座、中学

生読書サポーター養成講座等を開催いたしまして事業の充実を図ることとしております。29年度では、3年ぶりに学校司書を採用配置するために学校との連携、学校間との連携強化を図ることとしております。次に、46番目の学校施設改修事業でございますが、50番目の城山中学校整備事業も関連するところになります。各学校の大規模改修工事やエアコン整備等施設整備の実施が事業内容でございます。この事業に関連するところで学校の規模及び学校配置の適正化というものがございます。本年度におきましては、児童生徒数の増加、または減少に伴う学校生活・学校運営・施設整備に関する諸問題を調査いたしまして、宗像市立小中学校の規模及び学校配置の適正化に関する基本的な考え方と適正化に向けた具体的な方策を専門家会議により検討をしております。早ければ今年度内に専門家会議の方針案を総合教育会議でお示しをしたいと考えておるところでございます。最後に、53番目のグローバル人材育成推進事業でございますが、グローバル人材育成プランに基づきまして、関係部署関係団体の活動を支援、コーディネートを行いまして、学校や地域・団体・企業などと積極的に連携を図り、宗像国際育成プログラムや海外研修事業、宗像ガイド事業、歴史未来塾、イングリッシュキャンプなどを実施するとともに、APCCや日本の次世代リーダー養成塾等と協力をし、グローバル人材育成の推進を図っているものでございます。また、宗像市グローバル人材育成協議会を中心に、大学や市内国際交流団体等と連携を図りまして、グローバル人材育成や国際交流の活性化を図るとともに、国際交流や事業参加者の交流や活動の場を提供するものでございます。29年度はグローバル人材育成協議会及びそれに付随する機関であるグローバルネットワーク座談会などを活用しまして、参加する大学や高校、企業、国際交流団体、留学生等と協力をしまして、英語の活用機会の創出や市民の国際理解や国際交流の推進につながる事業を実施することとしております。少年少女海外派遣事業（ニュージーランド研修）につきましては、低所得世帯に対し、減免措置などを導入することを検討しているところでございます。以上、10事業をピックアップしてご説明をいたしました。

【谷井市長】 施策の「子どもに対する健やか成長」について、宗像市はかなり多くの事業を実施していると感じました。宗像市は子ども基本条例を先駆的に作っているということで、来月、ユニセフ協議会のシンポジウムで発表をすることになっております。全国で宗像市を含めて3市町だけです。もちろん、どこの市町村でも取り組みは行っていると思いますが、子ども基本条例や行動計画など体系的に実施できたことは大事だと思います。全国場で発表の機会が得られましたので、宗像市をPRしていきたいと思っております。

【中岡委員】 3項目について、話したいことがあります。まず1つ目ですが、子どもの居場所づくり事業と放課後子ども総合プラン事業について、これは非常に関連するところがあると考えております。それぞれ独立して事業がありますが、内容について重複するところがあるかなという気がしておりますので、この2つ事業を上手く整理する必要があるのかなと思っております。それから2つ目ですが、地島小学校で福岡教育大学と連携をして、市の予算で放課後に大学生が泊まり込みで指導しているみたいですが、地

島の場合は、塾等には行けませんので、子どもも親も助かっていると思います。子どもたちが勉強に対して意欲が出ているという話も聞いておりますので、継続して事業を実施していただきたいと思います。それからもう1つですが、学校施設改修事業と城山中学校の整備事業の件でございます。教室に限界まで入れ込んで学習している学校と余裕を持った空間で学習している学校があり、差が非常にあることを考えますと学校規模を適正にしていくことは大事なことだろうと思っております。例えばですけれども、城山中学校を新しく建て替える話がありますが、玄海小中学校が施設一体型の小中一貫校という形で効果を上げているところもありますので、城山中学校の校舎の改修の時に、学校規模・校区も含め、施設一体型の小中一貫校の建設を考えることもできるのかなと思います。

【子ども育成課長】 子どもの居場所づくり事業と放課後子ども総合プラン事業について、関連があるのではないかということでしたが、大きな意味では放課後総合プランで行っております寺子屋事業、これも子どもの居場所づくり事業ということになります。事業を分けている理由としては、事業別の予算がありまして寺子屋事業につきましては国の放課後総合プラン事業に基づいて行っていることが理由としてあります。子どもの居場所づくり事業は、子ども基本条例に子どもの居場所づくりの定義がありますので、それに基づきまして実施しています。

【教育子ども部長】 子どもの居場所づくり事業については協働型で、市民と一緒にやっていく事業です。それがプレーパーク事業や寺子屋事業などです。また、学校主導型の事業もあります。それが放課後に福岡教育大学の学生を活用して学力向上に繋がる補充学習を実施している事業です。また、地島小学校の件については、協働型と学校主導型の中間型とご理解いただけたら良いかと思っております。学生による補充学習と合わせて地域の方にもご飯を作っていただくなどを担っていただいております。学生ボランティアの謝金、交通費などの経費については、行政が支援することにしております。

【教育政策課長】 適正化計画に伴う通学路の見直しについてですが、学校の統廃合とは別に、通学路の範囲の見直しによって適正化を図っていくということも視野に入れて検討を今進めているところでございます。また、城山中学校の建て替えにつきましては、施設一体型が望ましいということでございますが、宗像市といたしましても施設一体型も考えており、場所等の検討も含め検討しているところでございます。

【谷井市長】 私の考えですが、離島での福岡教育大学の学生の活用について、島づくりの基金があります。一般財源は非常に厳しいですから、学力向上を含めて島づくり基金を活用して実施したらいいのではないかと思います。適正化計画については、地域では大きな問題になりますが、国の指針がありますので、私は実施すべきだと思っております。

【宮司委員】 学校施設改修事業のエアコンの設置について、他自治体ではエアコンが設置されているところもあると思います。実際、9月になっても暑かったりして、子どもや先生方の体調はどうなのかなと思っておりますが、学校や教育委員会事務局で温度

を調べたり、学校の意見を聴いたりしているのか教えてください。

【教育子ども部長】 今年の1学期末に各学校で温度の調査を実施しております。7月になってから30度を超えた日が多くありました。扇風機をつけてからは以前より改善はされただろうと思います。学校現場からエアコンを設置して欲しいという意見はあまりありませんが、学校は暑いという話は聞いております。エアコンの設置については、昨年度、6中学校の特別教室32教室にエアコンを設置しております。また、先日小学校のエアコン設置について、補助金がつきましたので、29年度に11小学校の特別教室56教室にエアコンを設置する予定です。普通教室については、市内の教室に全部つけると300教室程あり、約6億5千万円の予算が必要になってきますので、この財源をどうするのが課題となっております。

【谷井市長】 地球の温暖化が叫ばれている中で、扇風機だけでいいということにはならないだろうと思っています。しかし、国の補助金も少なく、財源が非常に厳しい状況です。福岡市など大きな市は財源が豊かですので、エアコンを設置できていますが、宗像市のような小さな市では財源が限られていますので、扇風機で対応してもらっているのが現状です。今後、子どもの健康の問題や予算の問題、その他様々なものを総合的に勘案して検討していくことになると思います。

（2）確かな学力を育む教育について

【守指導主事】 宗像市全体の学力の状況及び学力向上に向けた取組みについての説明を行います。説明する内容は3つです。1つ目は宗像市全体の結果です。2つ目は宗像市全体の傾向から見た課題です。3つ目はその課題から見た学力向上に取り組む内容についての説明を行います。まずは宗像市全体の状況です。こちらに全国学力テストの結果を掲載しております。小学校は6年生が対象となっております。ご覧のように全国に比べて国語A・B、算数A・Bともに上回っております。次に、中学校ですが中学校3年生が対象となっております。こちら本年度は国語A・B、数学A・Bともに全国を上回っております。こちらがここ数年の結果になります。まず、小学校です。平成22年度から本年度までの結果ですが、平成25年度からは全国平均を上回っており、安定した学力を維持しております。続きまして中学校ですけれども、平成26年度から上昇傾向にあります。次に、福岡県の学力調査の結果になります。こちらは小学校5年生、中学校2年生が対象になります。国語は小学校、中学校共に福岡県の平均よりも上回っております。福岡県の学力調査は昨年度から行っておりますので、ここ2年間の結果になりますが、ご覧のように福岡県の平均よりも上回っております。このように全体で見えていきますと、全国及び県内学力調査では安定した力を発揮しております。ここからはもう少し詳しく問題別に見たときにどうかということを説明していきます。こちらは小学校の国語で左側が全国、右側が県ですけれども、特に課題になっている問題を挙げているものです。特に赤で挙げているところが昨年度、今年度共に課題となっている問題です。ご覧のように小学校の国語では漢字を読んだ

り書いたり、また、目的や意図に応じて書くところが課題になっております。続きまして、小学校の算数ですけれども、表を読み取って説明をすることが課題になっております。続けて、中学校の国語についてですけれども、漢字を読んだり書いたり語句の意味を徹底的に使ったりというところが課題になっております。中学校の数学に関しましては、方程式や関数、式の意味を説明するところが課題になっております。では、ここからは全体の傾向からさらに詳しく見ていく中での宗像の課題を説明します。宗像市全体の傾向から見た課題は、大きく3つあると考えております。1つ目は総合的な学習の時間における学習活動についてです。2つ目は特にこれは小学校ですけれども、家で学校の宿題、予習をしているかについてです。3つ目は中学校に関してですが、学級会などで話し合っただけで意見をまとめているかについてです。まず、総合的な学習の時間がどういう学習なのかについて説明をします。総合的な学習の時間は、子どもたちが自ら課題を見つけ、課題を解決するために自分で調べて情報を集めます。その情報を整理し、まとめ、そのことを他の人に発信したり、また振り返ったりしていきます。そのようなことをすることでさらに新たな課題を見出して、また子どもたちは調べることとなります。特に、総合的な学習の時間で特徴的なものは、教科書は使わずに日常生活や社会との関わりの中から自分の課題を見つけていく特徴があります。このことにより子どもたちが主体的、自分から進んで調べていくところがとても大事になります。さらに、この学習を進めていくことによって、将来に向けての自分の考えをはっきり持つことができます。このようなことを総合的な学習の時間で行うことを大事にしております。例えば、宗像の中では総合的な学習の時間では体験活動をそれぞれ続けております。これは1つの例ですけれども、小学校では例えば3年生では福祉、4年生では水辺の教室を伴った環境教育、5年では宿泊体験を関連させて、6年では修学旅行を関連させたりもしております。中学校におきましても、1年生で例えば宿泊体験、2年生では職場体験、3年生では進路などを関連させて行っております。小学校4年生で行っています水辺の教室の環境学習についてさらに詳しく述べて参ります。例えばですけれども、子どもたちは社会科の学習でも釣川の水を私たち宗像市民が利用していることを学習していきます。一方で、釣川にゴミがあるような写真を教師が提示をしていくことで、実際釣川はどうなっているのだろうかというところでの課題を持ちます。そこで、その課題を基に水辺の教室に行き、上流から下流までの実際の釣川の様子を見てもらいます。上流では例えば、サワガニとか蛍の幼虫とかきれいな水でしか生息できていないような生物を、子どもたちが採取をしたりもします。一方では、下流の方では川の様子を見たり、河口近くでは実際ゴミなどを発見したり、ゴミ拾いなども行ってまいります。そこで、釣川を守っているいろいろな人たちに出会ったりもします。その調べたことを例えば、この釣川マップに子どもたちが発見したことを、そこで川を守っている人たちと関わったことをまとめていきます。そのことをいろんな人にお知らせする中で、川を守っている人がいる一方で水が汚れているところもあるというような現状に子どもたちは気づいていきます。そこで、例えばそのことを基に自分たちの使っている水って、自分たちの水の使い方

は本当にこれでいいのだろうかという新たな課題を子どもたちは見出してさらに調べたりすることも考えられます。また、そのことを基に、水をきれいに保つために自分たちができることはないだろうかというように環境についての課題を子どもたちが自ら追及していくことが総合的な学習で大事にしていることです。このような総合的な学習の展開が考えられますが、全国学力調査のアンケート結果ではどうかというところを説明します。右上に先生の指導とありますが、こちらは先生たちにとってのアンケートです。総合的な学習の学習活動ではどうですかという問いについて、赤が宗像の結果で青が全国の結果ですが、明確な課題を意識した指導については、宗像市は全国的に比べて低いというような現状があります。また、中学校につきましても同様に明確な課題を意識した指導については全国よりも低いというような現状があります。次に、子どもたちにとってのアンケートについてですけれども、子どもたちのアンケートも全国平均に比べて宗像は約7.5ポイント低いというような現状があります。中学生におきましても、約15ポイント全国より低いというような結果が出ております。この総合的な学習の時間については、平成26年度からこのアンケートを実施しておりますが、ここ3年間、小学校、中学校共に全国平均よりも低いというような課題が続いているところが総合的な学習の時間の課題となっております。また、この子どもたちの答えたアンケートについて、クロス集計というような新たな分析も行っております。このクロス集計というものは、質問紙で答えた内容とテストの正答率との関係を表しているものです。こちらにポイントがそれぞれ書いてありますが、このポイントは1番左の当てはまると答えた子どもの平均正答率と当てはまらないと答えた子どもの平均正答率の差をグラフで示しております。このことから、総合的な学習の時間において、自分で課題をしっかり持ってやっていると答えている子どもは、そうじゃないと答えている子どもの平均正答率を見ると、約10ポイント差があることがこのアンケート結果から成績等のクロス集計で言えます。同様に中学校に関しましても同じようなクロス集計では5ポイントから10ポイント弱それぞれの成績の結果が出ております。このように総合的な学習における体験活動は、それぞれの学校で、体験活動の位置づけを行っているのですが、その中でも特に課題を持ってというのが、不十分であると言えるのではないかと考えております。続けて2つ目の家で学校の授業の予習をしているかについての課題です。こちらは特に、小学校の子どもたちが予習をしていますかと答えているところが全国に比べて8ポイント低い現状があります。これも、過去5年間を見ていくと赤が中学校で中学校が全国平均よりも上回っております。ただし、小学校に関しましては、全国平均を下回っているといった結果になっております。こちらについても先ほどと同様にクロス集計していきますと、予習をしていると答えている子どもの平均正答率は約5ポイント高い結果になっております。こちらをさらに詳しく見ていきますと、宗像の子どもたちは約35.3%の子どもが予習をしていると答えておりますが、一方で、家で学校の宿題をしていますかについては、97.1%ほぼ全員が家での宿題はしていると答えております。ただし、宿題はしているが、予習はしていますかという問いについては3割ぐらいの子ど

もとどまっております。このことから、家庭学習は行っているが、予習など家庭学習の工夫が必要ではないかと考えております。このようにすることで子どもたちが主体的に臨むことにもつながっていくのではないかと考えております。最後に、学級会で話し合っ意見をもとめているかについての結果です。学級活動の話し合い活動ということですが、これは自分たちで話し合っ行いたいことを提案します。それを基に話し合いを行っ、実際に自分たちでいろんなことを行います。そして、また活動の振り返りを行います。この中での話し合い活動では、こちらの写真で挙げていますように、例えばクラスの中で机をコの字型に並べて子どもたちがお互いに意見を言い合えるような場づくりを行ったり、子どもたちの中で司会や書記などを分担したり、自分たちで話し合いを行ったりしています。このようなことを話し合い活動で行っていますが、中学校の学級会などで話し合っ意見をもとめているかのアンケートにつきましては全国平均を10ポイント下回っているという課題が中学校ではあります。このように宗像市全体から見た課題は総合的な学習の時間、家庭学習の予習、学級活動の話し合いであると考えております。では、それを基に学力向上に取り組む内容についての説明をします。今のことを踏まえ、宗像市では総合的な学習の時間の充実、学級活動や道徳を含めた徳育の充実、家庭学習の充実を行っしていきたいと考えております。まずは、総合的な学習の時間の充実です。先ほども出ました各学校で単元の流し方というのは行っていますが、その見直しを行う必要があるというように考えております。ここで挙げていますように、体験活動のみになっていないか、子どもが課題を明確に持っているか、さらには、この体験活動ではなくて他にもっとよい活動がないかということを見直しを行ったり、校内での研修を行ったりすることが必要だと思っております。それを行う上で、私たち教育委員会からも学校で行っけるような支援をしていきたいと考えております。2つ目の徳育の充実です。道徳につきましても例えば、道徳では相手の気持ちを大切にすることが本当の親切であるというような道徳的な価値を捉えていきます。それをもとに、これまで自分は親切にはしていたかもしれないけども、もっと相手のことを考えてできたというような自分自身の振り返りやより良いあり方を探していくのは道徳の学習で大事になっていくことです。また、学級活動や自分たちで話し合いを行っ行く中で、進んで自分たちで行ったり、みんなのために行ったりすることが学級活動で大事になってきます。このようなことを道徳や学級活動を進めていく中で子どもたち同士の関わりが深まり先生たちが効果を実感していくことが大事であると考えております。それができるようにするために、今考えていることは2つです。1つ目はモデルの提示です。道徳や学級活動は、このようにすることがいいという授業を参観する機会を設けたり、また、各学校で学校の日に年間の中で1回は道徳・学級活動を公開することを行っていますが、それに向けて各学校で校内研修を実施したりしていくことを支援していきたいと考えております。また、日常の授業の中でも子どもたち同士が関わり合っ交流活動を行っ意見を交わしたり、また、日常の授業の中で、交流活動が行われたりすることを見取っっていくことが大事になってくると考えております。最後に、家

庭学習の充実です。家庭学習の充実に向けては、中学校区で独自に家庭学習の進め方や目安の時間などを家庭学習の手引きとして家庭に配布したり、子どもに説明したりしております。この内容が子どもたちの発達段階や子どもたちの答えが合っているものなのか、また、実際にこれを配っておりますが、本当に周知徹底ができているのかを見直していくことが必要だと考えております。そのことを受けて、例えば、低学年では予習の前にまずは学習習慣を形成することを重視します。中学年では自主学習の中で予習を行っていくなど発達段階に応じた取組を行っていきたいと考えております。さらに、家庭や地域に内容を見直しに行ったり、家庭周知を行ったり、地域へ協力の依頼をしたり、家庭や地域への働きかけもさらに行っていきたいと考えております。学力向上に取り組んでいきたい内容は課題を踏まえて3つを説明させていただきました。以上、全国学力状況調査の結果、それから宗像の課題、さらには課題を踏まえた学力向上に取り組む内容についての説明を終わります。

【谷井市長】 学力テストの結果は高いが、総合学習や家庭学習、道徳的なものの結果が低く、それに対する課題を説明していただきました。

【石丸委員】 毎年行われております学力調査について、活用能力を試すB問題はいかようにもアレンジができますが、基礎基本を問うA問題は出題傾向が限られてきますので、結果に一喜一憂するのはいかがなものかと思えます。しかし、勉強すれば確実に学力は上がっていきますので、どのように手立てをするかが大きな問題かと思えます。今日は、総合的な学習で説明がありましたが、課題意識をどう子どもに持たせるかとともに、私が最も重要だと思うのは学習意欲ではないかと思えます。その学習意欲につなげるためには、子どもが分かったとか、できたという実感が非常に重要じゃないかと思えます。そういう意味では、学力向上を単に数値を上げるための小手先の手立てだけではなく、学習意欲を高めるためにはどうしたらいいかを考えて実行していただきたいと思えます。

【谷井市長】 学力テストの結果は高いことはいいことですが、総合学習や家庭学習、道徳的なものの結果が低いことはやはり問題であると実感しました。

【阿部主幹指導主事】 点数だけにこだわらず、本当に体力も含めてそれから徳育も含めて総合的な人間力を高めていかなければいけないと考えております。点数だけで判断するのではなく、その点数の基になる学習の本質から考えていこうとしております。宗像の子どもたちは学習の主体性に欠けているような結果が出ておりますが、自分たちの問題として授業を受けたり、一緒に話し合ったりすることで、学力につながっていくと思えます。実は調査結果で、もう1つ課題がありまして、自分たちに良いところはありますかという問いについては、宗像市の子どもたちはずっと低い結果です。そういうところを含めると、やっぱり学力の点数だけではなくて、徳育も含めた総合的に判断しながら子どもを育てるところには視点を向けていかなければいけないと考えておるところでございます。

【谷井市長】 学力テストの結果が高いということは子どもたちや学校の先生の潜在的な能力が高いということでしょうか。塾に通っている子どもが多いからそのような結

果になるのでしょうか。

【遠矢 教育長】 塾だけの力ではなく、宗像市はやはりいろんな部分を含めても教育に関する意識が高いところですし、子どもたちは潜在的な力というのは十分持っているということを経験上感じているところがあります。

【谷井 市長】 よく言われるような宗像市は塾があるから高いのではないかという訳ではないということですね。

【遠矢 教育長】 塾に関する全国調査がありますが、中学生が全国と比べると少し高いぐらいで宗像市は全国と大差ないと思います。いずれにしましても、塾に行っているから学力が高いというのを実証的に把握するのは難しいですけれども、塾に行っている子どもと塾に行っていない子どもを比較した資料では必ずしも塾に行っている子どもが、全てにおいて高いという結果が出てないということもあります。一番のベースはやはり学ぶ意欲です。子どもたちが主体的に学ぶ意欲、力をどう作っていくかが大事であると思います。それが、今度の新しい学習指導要領の中で言われていますアクティブ・ラーニングです。子どもたちが自ら課題を見つけて主体的に学んでいく学習をどう作っていくのが、次の学習指導要領の大きなテーマになっています。総合学習を見た場合に、自分たちで主体的に課題を見つけて将来に向けての考えをつくっていくところが低いのは、まだ学校の先生が主体的にルールを引いて、その中で子どもたちが学んでいる状況がありはしないかということが言えるのではないかと思います。子どもたちは潜在的な力は十分にあると思いますので、自分たちで主体的に学んでいく力をつければ、自ずと結果的に学力面についても、良い影響が出てくるだろうと思います。教育委員会と学校が合わせて、子どもたちが自発的に主体的に学んでいく授業をどうつくっていくのかとが、今後、我々がしていかなければならないことだと思います。

【中岡 委員】 学力について、今まで5教科の点数が大事であるという世間の風潮がありましたが、道徳や学級活動など、そのような部分も含めての学力であると変わってきたことは非常に大切なことだと考えています。宗像市は小中一貫教育を実施しております。今までの小中一貫については、どちらかという学習の面でのつなぎに重点を置き、これは当然進んできていますが、今後は、学級活動や道徳の面でつなぎを付け加えながら子どもたちの学力を伸ばす方向性を作っていくことが必要なのかなと考えております。

【白石 委員】 自信が持てることが1番だと思います。学力面にスポットを当てると宗像市は成果を出しておりますし、成績が上がった子は自信が持てると思います。学校現場を見学させていただくと、学校や教育委員会が自分をアピールする機会をできるだけ増やそうとされている状態がよくわかります。

【宮司 委員】 小学生が学校の授業の予習をしているかというところで、とりあえず宿題はしているということですが、予習をしている子どもたちはどのように思って予習をしているのかが不思議に思います。主体的に思って予習をしているのであれば、学校全体でその主体性を揃えることで、全体的に高まってきて、みんなで頑張ろうということに

なるのかなと思いました。また、学習意欲について、前回に総合教育会議でALTがいる河東小学校の授業の映像を見せていただいたときに、こういう授業を宗像市の子どもたちがみんなできたらいいだろうなと思いました。宗像市はグローバル事業を実施していると思うのですが、そこに参加したいと思う子どもは主体性がある子どもが参加していると思います。本当は参加したいけど、自分に自信がなくて参加できないような子どものために、学校が自信を持てる場を作ってあげればいいのかないかなと思います。それから、家庭も協力して実施できたらいいのではないかなと思います。

【遠矢 教育長】 今後の新しい学習指導要領では小学校で英語を勉強させるようになります。英語の取組を先進的にやられている他自治体ではALTを増やしたり、英検の準1級クラスの先生を雇ったりする予定の自治体もあるみたいですね。宗像市も全体で9名のALTを配置しており、かなり経営資源を投資していると思います。また、新しい学習指導要領に対するその効果を検証していくために、全国学力テストで英語も実施する方向性である旨が国で思案されています。ですので、ALTが常駐する時間を増やすような方策を今後、考えていく必要があると思います。

【白石 委員】 先日、玄海小中学校に行ったとき、先生方が英語でALTの先生方と会話されていました。これにはすごく驚き、先生方の意欲を感じ取ることができました。

【谷井 市長】 先生方がまず意欲持てば、必然と子どもたちにも伝染すると思いますので、良いことだと思います。

【白石 委員】 説明があった家庭学習の充実について、発達段階に応じた取組で、低学年は学習習慣の形成、中学年は自習学習の中で予習とありましたけれども、低学年において、予習的な内容を学校の授業の最後で話されるということでしょうか。

【守指導主事】 もちろん予習も大事ですが、予習を行なう前にまずは家でこの時間からこの時間までは宿題をやるという学習習慣が前提にないと、自分が予習をすることは身につかないと考えています。まずは学習習慣を身につけるために、家でこの時間からこの時間までは必ず宿題をすることを覚えさせ、それを踏まえて予習や自習学習を行なうのはどうかという1つの例として加えさせて頂いております。

【谷井 市長】 確かな学力を育む教育をまとめますと、1つ目が自信ややる気をつけさせることが大事であるということ。ALTは自信ややる気をつけさせる1つのツールであるということ。ALTについては、予算確保のためにも成果がでているのか検証していただきたいと思います。2つ目が課題を具体的なモデル事業として改善を図っていくことです。本市の学力は高いですので、学習意欲が低いなどのマイナス面を改善すれば、必然的に総合的な力がつくと思います。

(3) 健やかな体を育む教育について

【佐々木指導主事】 宗像市児童生徒の体力の現状についてお話をさせていただきます。まず、宗像市児童生徒の体力の現状でございますが、宗像市学校教育アクションプラン2

016では学力向上の総合プロジェクト、豊かな心育成の総合プロジェクト、そして、この体力向上の総合プロジェクトを3本の柱として自立し、かかわりを深める子どもの育成を目指しております。この体力総合プロジェクトですが、このように学校の中で児童生徒を育てる教育活動が大きく4つに分かれております。それを支える事業として、教育委員会では幼少子どもの教員研修会、食育担当者研修会、栄養教諭研修会、養護教諭研修会、体育保健体育科の授業研修会等、教育委員会の主催で行っている事業がございます。最終的な目標としましては、新体力テストで、全国平均以上を目指しております。では、新体力テストがどのようなものかご紹介させていただきます。この体力テストは、子どもの体力の現状を知るためのもので、8つの項目がございます。それぞれに関わる体力があつて、毎年5月から7月にかけて1学期中に実施をしています。体力テストを実施した結果は、文部科学省に小学校5年生、中学校2年生のデータを提出しております。また、福岡県には全学年のデータを提出しております。過去3年間にさかのぼりまして、宗像市の子どもの体力の現状をお知らせします。これは平成25年度の体力テストの総合点、それと全国平均と福岡県平均との比較です。小学校5年生につきましては、全国平均を上回っていますが、中学校2年生は男女とも下回る結果が出ました。さらに、平成26年度は残念ながら、どの学年も下回る結果でございました。さらに、平成27年度は中学校2年生男子につきましては、福岡県平均、全国平均ともに下回るという結果が出ました。このことから、宗像市体力総合プロジェクトの目標である全国平均以上という結果が過去3年間で達成できていないというのが実情でございます。さらに詳しく、平成27年度、中学2年生の体力テスト種目別の全国平均との比較を行ってみました。男子では8種目あります体力テストの中の6種目で全国平均を下回っています。また、女子も、全国平均は上回っていましたが、長座体前屈、上体起こし等、筋力、筋持久力を測るもの、それから、20メートルシャトルラン等、全身持久力を測るものについては、全国平均値よりも大きく下回る結果が出ていました。このような結果をもとに、各学校では体力向上プランを作成しています。この体力向上プランは、まず各学校の体力の現状を前年の体力テストの結果をもとに分析しまして、具体的な目標数値を設定します。それに基づいて、1年間でこんなことをやっていこうというような取り組みを決定して、継続的に行っています。例えば、教育課程外の時間を使って体力向上を行ったり、それから、授業の成果発表の場を学校行事に組み込んだりして、体力向上を行っています。

【文化スポーツ課参事】 続きまして、宗像市のスポーツ推進計画についてお話します。報告に入る前に、2つの観点を持って話を聞いていただければと思います。まず1点目は、スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツで笑顔、元気あふれるまちづくり、子どもたち」に関しましては、スポーツ運動が本来持つ、楽しさを大切にした活動により、スポーツ運動が好きになり、笑顔いっぱい元気走り回る、スマイルキッズを目指しています。もう1点は、子どもたちの体力を伸ばすときに、どの体力を伸ばすのかという観点ですが、スキヤモン曲線というものがありまして、小学生から中学生に上がるまでは、神経

系で体をうまく使うコーディネーション能力が最も上がる時期といわれています。また、小学校の高学年から中学生にかけては、持久系、持久力が科学的に最も伸びる時期であるといわれています。さらに、ウエイトトレーニングをして筋力をつけることは高校に入ってからでも十分であるといわれています。そういったスポーツ推進計画と、小学校・中学校の間に、神経系もしくは持久系を伸ばしていこうという取り組みを進めているところでございます。こちらはスポーツ推進員が行っている支援の取り組みになります。まず、子どもたちに体力の現状をお知らせすることは大事なことだと考えております。毎年1回、小学校1年生から中学校3年生まで行っております。1年間でどれだけその子が伸びたのかをお知らせするには正確な測定が必要だと思っております。スポーツ推進員を各小学校へ派遣している様子です。本年度は測定の判定だけにとどまらず、事前に研修を行ないまして、例えば、スポーツ推進員が子どもたちにどのような声かけをすると子どもたちが理解し、実行できるのか等を実施しております。立ち幅跳びをする前に腕を振る動作のウォーミングアップをしたり、斜め45度で飛ぶようにしたら良く飛べるといったポイントを教えたりしている様子です。こちらは、福岡教育大学との連携事業です。平成27年度はモデル事業として投力の向上を目指す取り組みを行ないました。調査研究になりますけれど、授業の1回目と8回目については1.5メートルの距離が延びている結果も出ています。本年度は昨年度の反省を踏まえ、このプログラムをさらに進化させまして、授業の様子、プログラムの様子、アップの様子をDVDで作成し、各小学校に配布する予定です。子どもはうまく投げられないので、上半身の使い方、下半身の連動など、運動能力を伸ばしていきましょうという観点で行なっています。続きまして、トヨタ自動車九州の陸上部による持久走の体験指導の様子です。トヨタ自動車九州のトップ選手、メダリストと触れ合うことにより、より運動の楽しさ、運動の素晴らしさを体験し、なおかつ持久系を伸ばしていこうというプログラムで毎年行っているところでございます。こちらは、塚原体操クラブによるマット運動の指導です。マット運動は子どもたちの普段の生活の中では中々体験をしていないような運動であり、苦手になっている子どももたくさんいると思います。子どもたちがマット運動を通してマット運動の楽しさや普段体験できない運動をすることで、コーディネーション能力の向上に役立っている事業でございます。こちらは、ヨットやカヌー体験で海洋性のスポーツに触れ合うとともに、バランス感覚や水辺での安全確保の学習を行なっている取組です。カヌーやヨットの体験のみならず、宗像の海の歴史授業を郷土文化課の学芸員と連携して取組んでいるところです。こちらは、地元の宗像サニックスブルースの地域貢献事業です。これは、タグラグビーですが、小学校4年生を対象に大半の学校でタグラグビーを授業に取り入れていますので、それをサニックスブルースの選手に来て頂きまして、子どもに指導している様子の写真でございます。タグラグビーはコーディネーション、身体を動かす、ステップを踏む、ボールを持って走る等、子どもの神経系を伸ばすのにかなり有効であると言われておりますので、これにトップ選手が関わって授業を展開している様子です。今まで39クラス、約1000名の子どもたちにプログラ

ムを提供しております。こちらは、本年度初めて行いましたが、サニックスのコンディショニングコーチが河東中学校に来て頂き、河東中学校の運動部活動を持っている先生方にスクワットの正しい方法を教えているところです。子どもも参加したいということなので、生徒さんも参加していますけれども、基本的には先生方へのコーチング力を上げることによって、先生がたくさんの子どもにその情報を提供できますので、子どもたちに正しい運動手法を提供できるということです。実際にプログラムは90分間で予定でしたが、2時間ほど質問を和田コーチにされていました。先生方は熱心に聞いて頂いて部活動に是非取り入れて行きたいと言われていました。子どもたちの体力を伸ばしていくには、指導者のコーチングのスキルを今後上げて行くことが大切であると考えております。これは、バックヤードツアーで、サニックスブルースの実際のトレーニングの様子やロッカー室、選手が実際に食べている食事を体験している様子です。この他にも本年度は指導者のコーディネーションの研修、他競技を体験できるプログラム等を考えています。ここからは、宗像市のスポーツサポートセンターについてお話しします。宗像市のスポーツ推進計画を推進していくために、宗像市にある3大学、スポーツ施設、指導者、場所を活用しながら宗像市民のみなさんの運動スポーツの支援をしていきたいと考えております。これがスポーツサポートセンターの役割ですが、子どもに関しましては、子どもの体力の低下を改善するために市民のスポーツ運動を支援していきます。宗像市にある資産を活用してやっていきましょうということを今考えているところでございます。それがスポーツサポートセンターのターゲットプランです。まず、体力の向上として、運動能力の向上をプログラムして取り入れまして、それを各学校、市民体育館等で行っていく予定としています。また、学校では4月当初に行いますが、例えば、子どもが中間期に部活動や運動をやってどのくらい伸びたかなということを調べる時にそういった仕組みがありませんので、会議室兼多目的室で測定を行なえるような仕組みをつくりまして、子どもたちも常に自分の体力がどうなっているのかということ自分で調べられるような場所にしたいと考えております。子どもたちにつきましては、海外のアスリートと交流することでグローバル人材の育成、スポーツ推進都市としての発展をするためにいろいろなボランティア活動などを行なっていく取り組みをして、子どもたちの人材を育成したいと思います。すでに10月からグローバル人材のプログラムの開始をしまして、24名の宗像市内の中学生・高校生、そして宗像市内に通っている高校生が参加してプログラムを行なっているところです。先日、ブルガリアから使節団が宗像市に視察に来まして体育施設、宿泊施設、宗像市の観光施設、またはリラックスをする場所を調べ、今後、ブルガリアで検討して合宿誘致を進めていくという取り組みをしているところでございます。

【谷 井 市 長】 体力に係る子どもたちの現状とスポーツ振興計画に基づき、子どもたちだけではなく、市民の体力、健康づくりのために支援を図る具体的なプランを実施していることを説明頂きました。

【宮 司 委 員】 毎年学校で測っている体力測定について、スポーツ推進員は全学校

に派遣しているわけではないのですか。

【文化スポーツ課参事】 毎年年度末に来年度の希望を全学校に聞いています。学校の希望があるところには基本的に全部行かせている状況です。

【谷井市長】 希望していない学校には派遣していないということですか。

【文化スポーツ課参事】 各学校の事情により先生を総動員してやる学校もございますので、希望している学校に派遣しているのが現状です。派遣人数につきましては、少しずつ増えてきているところです。

【谷井市長】 私が心配していることは、スポーツ推進員を派遣している学校とそうでない学校で差が出てくるのではないかと考えています。ですので、希望したところだけというのはどうかと思いますが、そのことについて何か考えていますか。

【文化スポーツ課参事】 他自治体ではリーダーバンクという仕組みがありますが、これも希望制です。ですので、我々としましても学校からの希望に基づき派遣を要請するという形を取っていきたいと思います。

【文化スポーツ担当部長】 学校との連携で様々なプログラムを展開しているのですが、まだ研究段階で、学校と連携をして、まだ2、3年のものもたくさんございます。これを全体にどう波及させていくかということはこれからの取組の中で決まって行くのではないかと考えておりますし、モデル校だけに留めるつもりはございません。今、やっていることをどのように体系化をしながら全体に広げて行くかということが大事かと思っております。体力の向上は学校だけの問題ではなく、宗像市の持っている様々なスポーツ資産を活用して、底上げを図っていくという取組みを始めたばかりだとご理解頂ければと思います。ここ数年の推移を見ますと、相当な効果が期待できるのではないかと考えているところです。

【谷井市長】 私が気になっているのは、学校がすでに取り組んできている中で実績が上がっていないということです。例えば、指導者がいないなら、指導者を呼んでくるような予算化は構わないと思います。子どもたちの体力をつける目的のためであれば、遠慮なく申し込みたい。

【教育子ども部長】 平成25、26年度の体力テストの結果で全国平均を下回っているということで、各学校に取組を考え直しましょうと校長会で話をしております。今後はその考え直した取り組みをやっていかないといけないと考えておるところです。市民の力を借りながら体力問題をどうするかとともに、中学校の部活問題もありますので、これからもう一步踏み込んで作業を進めて行く必要があるかなと認識をしているところです。学力ばかりに目がいってしまい、体力がなおざりになっている感は否めないかなと思っております。

【阿部主幹指導主事】 体力の問題については学校だけではなく地域も一緒になってやっていかないといけないと思っております。1週間の中で体育の授業が3時間、後は休み時間に20分程度外で遊んでいるぐらいですので、学校の中で体力を上げるというのはたかが知れていると思います。ですので、体力全体を上げるには、家庭地域との連携が必要不可

欠であると考えております。

【中岡委員】運動離れをしている子どもたちが増えているのではないかと思います。中学校の部活動に入る子どもたちが少なくなってきましたし、家庭で親とキャッチボールしたり、海に泳ぎに行ったり、山に登ったりする経験をしている子どもたちが、減ってきているのではないかと思います。ですので、子どもたちが家庭でどれだけ運動する機会があるのか、子どもたちの運動に対する意識調査等も含めて実施するべきではないかと思えます。そこから結果を分析し、解決していく方向性を探らないといけないと思えます。学校だけでいろんなプロジェクトを組んで実施しても、結果にはなかなかつなげていけないだろうと思っております。また、体力テストに対する子どもたちの意識の強さも関係してくると思えますので、結果だけ見てもそこが見えてこないのではなかろうかと思えます。

【佐々木指導主事】意識調査の件ですが、手元に資料がございますので紹介させていただきます。まず、運動が好きであるという子どもについて、小学校5年生、中学2年生のデータのみですが、小学校5年生の男子以外は、全国平均を上回っております。運動が得意であるかどうかという質問に対しては、全ての学年で全国平均を上回っております。小学校5年生の男子については全国平均を下回っておりますが、0.8ポイントとわずかな差です。データから言いますと全国の子どもたちに対して宗像市の子どもは運動が好きであって得意であると思っているということがわかります。それから、宗像市の子どもの体格、身長・体重ともわずかに全国平均を下回っております。

【石丸委員】体育の目的は体力を高めることだけではなくて、いろんな力を目指しております。ですので、体育は体力を高めることではなく、体力向上のきっかけを見つけられるチャンスであると思えます。学力は学校が担う領域が大きいですが、体力は学校とそれ以外が協働で高めていかなければいけないですので、まちづくりは人づくりであり、人づくりのためには子どもの体力をつくるという気概をもって市全体で取組むということが重要なポイントではないかなと思えます。

【白石委員】基礎力が大事だと思います。幼児期にバランスのとれた身体づくり、どこかを鍛えるということではなく遊びを中心に、全ての筋力を使う蜘蛛歩きであるとか、そういうものを取り入れた遊びが少なくなっているような気がします。それを補うためにいろんなものを各園で取り組んでいるとは思いますが、全ての園に浸透しているかといったらそうではない現状があると思えます。それと、目的が出てくると子どもたちは絶対に成果を出してくれるので、家庭と連携して山登りの日時を決めるとか、海に行って海岸を持走しようとか、そういうことがあれば自然の力も借りて取り組めば良いのではないかと思います。市主催のスポーツ大会ができなければ、家庭と地域を巻き込んだイベントで楽しめて、かつ、達成感を持てるようなものができたら体力、筋力、持久力が備わっていくのではないかなと思ったりもします。

【谷井市長】今までの話を聞いていて思うのは三位一体、学校・地域・家庭、こ

れが全ての基本にあるのだなと思いました。今日語られた様々な問題を三者でどうするかということについて、今後、連携をとって実施していただきたいと思います。

3 閉会

【谷井市長】すべての項目について協議が終了しましたので、平成28年度第2回宗像市総合教育会議を閉会します。次回は、2月21日を予定しております。詳細につきましては別途ご案内申し上げます。